




# Dell™ PowerEdge™ 850 システム ユーザーズガイド

[システムの概要](#)  
[セットアップユーティリティの使い方](#)  
[仕様](#)  
[用語集](#)

Model SVP

---

## メモ、注意、警告

-  **メモ:** コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。
-  **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示します。

## 用語集

略語の一覧が、「用語集」に収録されています。

---

**本書の内容は予告なく変更されることがあります。**  
©2005 すべての著作権は Dell Inc. にあります。

Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書で使用されている商標について: Dell, DELL のロゴ, PowerEdge および Dell OpenManage は Dell Inc. の商標です。Intel, Pentium および Celeron は Intel Corporation の登録商標です。Microsoft, Windows, および MS-DOS は Microsoft Corporation の登録商標です。Novell および NetWare は Novell, Inc. の登録商標です。Red Hat は Red Hat, Inc. の登録商標です。UNIX は The Open Group の登録商標です。

本書では、必要に応じて上記以外の商標や会社名が使用されている場合がありますが、これらの商標や会社名は、一切 Dell Inc. に所属するものではありません。

---

初版: 2005 年 3 月 28 日

## 仕様

### Dell™ PowerEdge™ 850 システム ユーザーズガイド

プロセッサ	
プロセッサの種類	クロック速度 2.8 GHz 以上の Intel Pentium® 4 プロセッサ ×1 または クロック速度 2.53 GHz 以上の Intel® Celeron® プロセッサ ×1
フロントサイドバス速度	
Intel Celeron	533 MHz 以上
Intel Pentium 4	800 MHz 以上
内部キャッシュ	
Intel Celeron	256 KB
Intel Pentium 4	1 MB 以上

拡張バス	
バスの種類	PCI-X、PCIe
拡張スロット – オプションのライザカード×2	
ライザー 1	
PCIe	フルハイト、ハーフレングス、x4 レーン PCIe スロット×1
PCIe	フルハイト、ハーフレングス、x8 レーン PCIe スロット×1
ライザー 2	
PCI-X	フルハイト、ハーフレングス、64 ビット、133MHz PCI-X スロット ×1
PCIe	フルハイト、ハーフレングス、x8 レーン PCIe スロット×1

メモリ	
アーキテクチャ	バッファなし DDR2 533 MHz SDRAM メモリモジュール(ECC 付き)4 つまで
メモリモジュールソケット	184 ピン×4
メモリモジュール容量	256 MB、512 MB、1 GB、または 2 GB
最小 RAM	256 MB(256 MB モジュール×1)
最大 RAM	8 GB

ドライブ	
ハードドライブ	
SATA	1 インチ高ドライブ 2 台まで
SCSI	オプションの内蔵 1 インチ高ドライブ(オプションの SCSI コントローラカード付き)2 台まで
オプティカルドライブ	周辺機器ドライブベイ内の CD、DVD、または CD-RW/DVD コンボドライブ  <b>メモ:</b> DVD デバイスはデータ専用です。
USB フラッシュドライブ	ディスクドライブまたはハードドライブをエミュレートできるオプションのドライブ×1

コネクタ	
外部アクセス用	
背面	

ネットワークアダプタ	RJ-45(1 ギガビットの内蔵ネットワークアダプタ用)×2
PS/2 型キーボード	6 ピンミニ DIN
PS/2 互換マウス	6 ピンミニ DIN
シリアル	9 ピン
USB	4 ピン USB 2.0 対応×2
ビデオ	15 ピン VGA
<b>正面</b>	
ビデオ	15 ピン VGA
USB	4 ピン USB 2.0 対応×2
<b>内部アクセス用</b>	
IDE チャンネル	40 ピン
SATA チャンネル	7 ピン×2

<b>ビデオ</b>	
ビデオタイプ	内蔵 XGI XG20 VGA コントローラ
ビデオメモリ	16 MB

<b>電源</b>	
<b>AC 電源装置</b>	
ワット数	345 W
電圧	AC 100~240 V、50/60 Hz
最大流入電流	通常のラインコンディションのもと、システムの動作環境全範囲で、入電量は 10 ms 以下で 25 A に達することがあります。
システムバッテリー	3.0 V コイン型リチウムイオン電池 CR 2032

<b>サイズと重量</b>	
高さ	4.2 cm
幅	44.6 cm
<b>奥行</b>	
オプションのベゼルを含む	57.6 cm
オプションのベゼルを含まない	54.6 cm
重量(最大構成)	11.8 kg

<b>環境</b>	
<b>メモ:</b> 特定のシステム構成でのその他の環境条件の詳細については、 <a href="http://www.dell.com/environmental_datasheets">www.dell.com/environmental_datasheets</a> を参照してください。	
<b>温度</b>	
動作時	10~35°C
保管時	-40~65°C
<b>相対湿度</b>	
動作時	1 時間当たり最大 10 % の湿度変化で 8~85% (結露しないこと)
保管時	5%~95% (結露しないこと)
<b>最大振動</b>	
動作時	15 分間に 3~200 Hz で 0.25 G
保管時	15 分間に 3~200 Hz で 0.5 G
<b>最大衝撃</b>	
動作時	z 軸の正方向に 2 ミリ秒以下で 41 G の 1 衝撃パルス(システムの各面に対して 1 パルス)
保管時	x、y、z 軸の正および負方向に 6 連続衝撃パルス(システムの各面に対して 1 パルス)、2 ミリ秒以下で 71 G
<b>高度</b>	
動作時	-16~3,048 m
保管時	-16m~10,600 m

---

[47. 注意および警告](#)

## システムの概要

### Dell PowerEdge 850 システム ユーザーズガイド

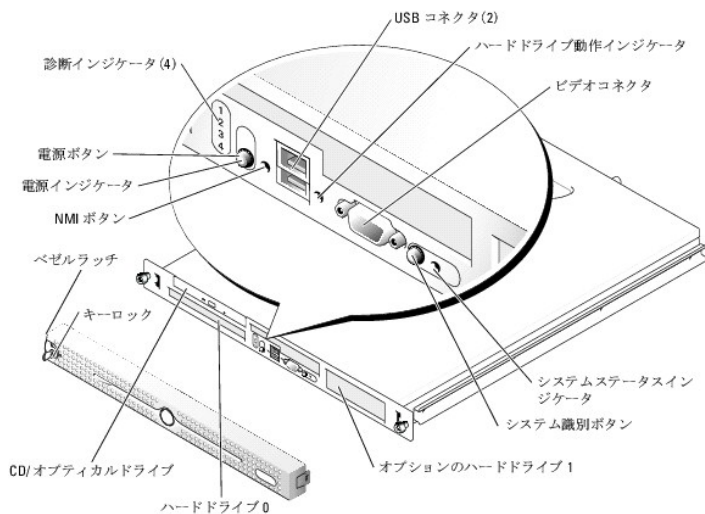
- [正面パネルの機能](#)
- [背面パネルの機能](#)
- [システムの機能](#)
- [サポートされているオペレーティングシステム](#)
- [電源保護装置](#)
- [その他の情報](#)
- [テクニカルサポートの利用法](#)

本項では、主要なハードウェアとソフトウェアの機能(正面および背面パネルインジケータ)、外付けデバイスの接続方法、および電源保護装置の使い方について説明します。また、システムを取り付けたり操作したりするために必要なその他のマニュアルを一覧に示すとともに、テクニカルサポートの受け方についても説明します。

## 正面パネルの機能

図 1-1 には、正面パネルのオプションのベゼルの背面にあるボタン、インジケータ、コネクタ、およびシステムのインジケータを示します。オプションのベゼルを取り外して正面パネルに手が届くようにするには、ベゼルの左端にあるラッチを押します。ベゼルを取り外す手順の詳細については、『インストール&トラブルシューティング』の「システムカバーの取り外し」を参照してください。表 1-1 には、正面パネルのインジケータ、ボタン、およびコネクタを示します。

図 1-1 正面パネルの機能







電源ボタンは、システムの電源装置への電源入力を制御します。

正面パネルのシステム識別ボタンは、ラック内の特定のシステムの位置を確認するために使用します。これらのボタンのうちの 1 つが押された場合、またはシステムを識別するためにシステム管理ソフトウェアをお使いの場合、システムの正面にある青色のシステムステータスインジケータが点滅します。点滅を止めるには、識別ボタンをもう一度押すか、システム管理ソフトウェアを使用します。オプションのロックシステムベゼルには、青色と橙色のシステムステータスインジケータが組み込まれています。青色インジケータは、システムが正常に動作している場合に点灯します。

表 1-1 正面パネルの LED インジケータ、ボタン、およびコネクタ

機能	アイコン	説明
システムステータスインジケータ システム識別ボタン	①	青色のシステムステータスインジケータは、通常のシステム動作中に点灯します。 橙色のシステムステータスインジケータは、システムに問題があり、注意を必要としている場合に点滅します。 正面パネルと背面パネルのシステム識別ボタンは、ラック内の特定のシステムの位置を確認するために使用できます。これらのボタンの 1 つを押すと、正面パネルと背面パネルの青色のシステムステータスインジケータは、ボタンの 1 つをもう一度押すまで点滅を続けます。 特定のシステムを識別するために、システム管理ソフトウェアを使用してインジケータを点滅させることもできます。
ハードドライブインジケータ	🗄️	緑色のハードドライブ動作インジケータは、SATA ハードドライブの使用中に点滅します。  <b>メモ:</b> このインジケータは、SCSI ハードドライブの使用中には点滅しません。

NMI ボタン		特定のオペレーティングシステムを使用している際に、ソフトウェアエラーおよびデバイスドライバエラーのトラブルシューティングに使用します。このボタンは、ペーパークリップの先端を使って押すことができます。認定を受けたサポート担当者またはオペレーティングシステムのマニュアルによって指示された場合にのみ、このボタンを使用してください。
USB コネクタ		USB 2.0 対応デバイスをシステムに接続するときに使用します。
ビデオコネクタ		モニタをシステムに接続します。
電源インジケータ、 電源ボタン		電源ボタンは、システムの電源を切ったり入れたりするのに使用します。  <b>注意：</b> 電源ボタンを使用してシステムの電源を切る際に、ACPI 対応のオペレーティングシステムを実行している場合、システムは電源が切れる前に正常なシャットダウンを実行することができます。電源ボタンを 4 秒以上押し続けると、現在のオペレーティングシステムの状態に関係なくシステムの電源が切れます。システムが ACPI 対応のオペレーティングシステムを実行していない場合は、電源ボタンを押すとただちに電源が切れます。  電源ボタンは、セットアップユーティリティで有効になっています。無効に設定すると、システムの電源を入れる場合にのみボタンを使用できます。詳細については、「 <a href="#">セットアップユーティリティの使い方</a> 」およびオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。  電源インジケータは点灯または点滅して、システムの電源の状態を示します。  電源インジケータは、システムに電源が入っている場合に点灯します。システムの電源が切れていてシステムに電力が供給されていない場合、インジケータは消灯します。システムに電源が入っていてもスタンバイ状態の場合、またはシステムの電源が切れていても電源に接続されている状態の場合、インジケータは点滅します。  スタンバイ状態から復帰するには、電源ボタンを瞬間押すか、マウスを動かすかクリックします。
診断インジケータ(4)		システムの診断とトラブルシューティングで使用します。詳細については、『インストール&トラブルシューティング』を参照してください。

## 外付けデバイスの接続

システムに外付けデバイスを接続する場合は、次のガイドラインに従ってください。

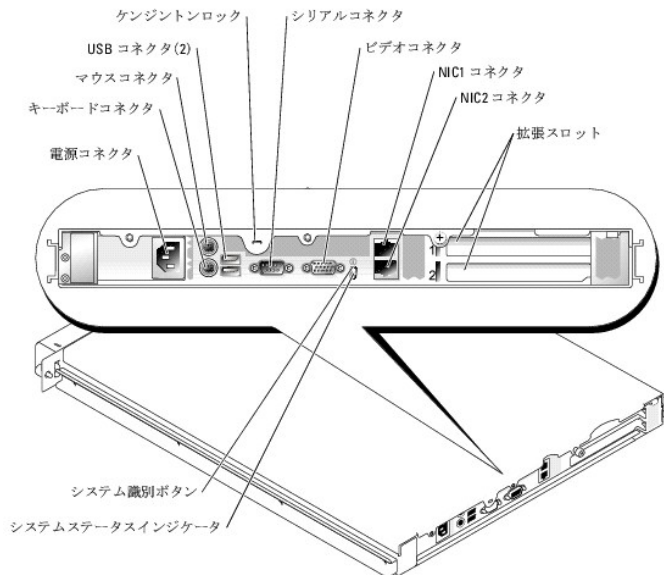
- ほとんどのデバイスは特定のコネクタに接続する必要があります。また、デバイスドライバをインストールしないとデバイスは正常に動作しません。デバイスドライバは、通常オペレーティングシステムのソフトウェアまたはデバイス本体に付属しています。デバイスに付属のマニュアルで、取り付けおよび設定の詳細を確認してください。
- 外付けデバイスを取り付けるときは、必ずシステムの電源を切ってください。次に、(デバイスのマニュアルに特別な指示がない限り)システムの電源を入れる前に外付けデバイスの電源を入れます。システムがデバイスを認識しない場合は、デバイスの電源を入れる前にシステムの電源を入れます。

個々のコネクタについては、『インストール&トラブルシューティング』の「I/O コネクタ」を参照してください。I/O ポートやコネクタを有効または無効にする方法と設定方法については、「[セットアップユーティリティの使い方](#)」を参照してください。

## 背面パネルの機能

[図 1-2](#) に、システムの背面パネルの機能を示します。

図 1-2 背面パネルの機能



## システムの機能

- 1U/1P ラックへの設置が可能な、Static Rail とスライドレールに対応したシャーシ。

**メモ:** プロセッサの情報を表示するには、セットアップユーティリティを使用します。「[セットアップユーティリティの使い方](#)」を参照してください。

- 1 次のいずれかのプロセッサ:

- 内部動作速度 2.53 GHz 以上、内部キャッシュ 256 KB、フロントサイドバス速度 533 MHz 以上の Intel® Celeron® プロセッサ。
- 内部動作速度 2.8 GHz 以上、内部キャッシュ 1 MB 以上、フロントサイドバス速度 800 MHz 以上の Intel Pentium® 4 プロセッサ。

- 1 最小容量 256 MB の 533 MHz の DDR 2 SDRAM メモリ。システム基板上の 8 つのメモリモジュールソケットに 256 MB、512 MB、1 GB、または 2 GB の非バッファ ECC メモリモジュールを組み合わせて取り付けることにより、最大 8 GB まで増設できます。

- 1 次のいずれかのライザーカードオプション:

- フルハイト、ハーフレングス、x4 レーン PCIe 拡張スロット×1、およびフルハイト、ハーフレングス、x8 レーン PCIe 拡張スロット×1。
- フルハイト、ハーフレングス、133MHz/64 ビット PCI-X 拡張スロット×1、および、フルハイト、ハーフレングス、x8 レーン PCIe 拡張スロット(オプションの RAC(リモートアクセスコントローラ)カード用のコネクタを含む)×1。

- 1 周辺機器ドライブベイ内の 3.5 インチ CD、DVD、または CD-RW/DVD コンボドライブ×1。

- 1 以下の内蔵ハードドライブ構成をサポートします。

- 内蔵ドライブコントローラ接続の 1 インチ高内蔵 SATA ハードドライブ 2 台まで。
- オプションの SCSI コントローラカード接続のオプションの 1 インチ高内蔵 SCSI ハードドライブ 2 台まで。

- 1 リモートシステム管理用のオプションのリモートアクセスコントローラ。このオプションには、PCI-X コネクタと PCIe RAC コネクタをサポートするライザーカードが必要です。

- 1 ディスケットドライブまたはハードドライブをエミュレートするオプションの USB フラッシュドライブ。

- 1 345 W の電源装置×1。

- 1 10 Mbps、100 Mbps、および 1000 Mbps のデータ転送速度をサポートする内蔵 Gigabit Ethernet ネットワークアダプタ×2。

- 1 システム冷却ファン×2、電源冷却ファン×1、および PCI ファン×1。

- 1 コンソールリダイレクション対応のシリアルコネクタ。

- 1 シャーシイントルーजन検出とオプションベゼルのキーロックによるセキュリティ機能。

- 1 システムの重大な電圧および温度の変化を監視するシステム管理回路。システム管理回路は、システム管理ソフトウェアと連動して機能します。

- 1 背面パネルには、キーボード、ビデオ、マウス、シリアル、2 つの USB、および 2 つの NIC の各コネクタが装備されています。

- 1 正面パネルには、2 つの USB、VGA、キーボード、およびマウスの各コネクタが装備されています。それぞれの機能の詳細については、「[仕様](#)」を参照してください。

ご使用のシステムには、次のソフトウェアが付属しています。

- 1 システム設定情報をすばやく表示したり変更したりできる、セットアップユーティリティ。このプログラムの詳細は、「[セットアップユーティリティの使い方](#)」を参照してください。

- 1 セットアップユーティリティから利用可能な、システムパスワードおよびセットアップパスワードを含む強化されたセキュリティ機能。

- 1 システムのコンポーネントおよびデバイスを評価するためのシステム診断プログラム。システム診断プログラムの使用方法については、『インストール&トラブルシューティング』の「システム診断プログラムの実行」を参照してください。

- 1 多くの一般的なアプリケーションプログラムを高解像度モードで表示するビデオドライバ。

- 1 オペレーティングシステムと内蔵の SATA または SCSI サブシステムに接続されたデバイスとの通信を可能にする SATA または SCSI デバイスドライバ。これらのドライバの詳細については、『インストール&トラブルシューティング』の「ドライバの取り付け」を参照してください。

- 1 システム管理ソフトウェアおよびマニュアル CD。

---

## サポートされているオペレーティングシステム

- 1 Microsoft® Windows® 2000 Server(Service Pack 4 またはこれ以降)
- 1 Microsoft Windows Server™ 2003 Standard Edition および Web Edition
- 1 Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition 64-Bit
- 1 Red Hat Enterprise Linux ES(バージョン 3)for Intel x86
- 1 Red Hat Enterprise Linux ES(バージョン 4)for Intel x86
- 1 Red Hat® Enterprise Linux ES(バージョン 4)for Intel Extended Memory 64 Technology(Intel EM64T)
- 1 Novell® NetWare® 6.5(Service Pack 3 またはこれ以降)

---


## 電源保護装置

電圧変動、停電などの影響からシステムを保護するための装置には、次のようなものがあります。


- 1 PDU — AC 電流の負荷が PDU の定格を超えるのを防ぐために回路ブレーカーを使用します。
- 1 サージプロテクタ — 雷雨中などに発生する可能性のある電圧スパイクが電源コンセントを介してシステムに侵入するのを防ぎます。電圧が通常の AC ライン電圧レベルより 20 % 以上低下するような電圧低下からはシステムを保護できません。
- 1 ラインコンディショナ — システムの AC 電源電圧をほぼ一定に保ち、短時間の電圧低下からシステムを保護しますが、完全な停電の場合は保護できません。
- 1 UPS (無停電電源装置) — AC 電源が停電した場合に、電力供給をただちにバッテリーに切り替えてシステムを動作させ続けます。バッテリーは AC 電源が利用可能な間に充電されます。AC 電力が供給されなくなると、5 分から約 1 時間の限られた時間、バッテリーからシステムに電力が供給されます。バッテリーで 5 分間しか電力を供給できない UPS では、作業中のファイルを保存して、システムを正常にシャットダウンする程度の作業しか行えません。UPS は必ずサージプロテクタおよび PDU と併用してください。また、UPS が UL の安全基準に合格していることを確認してください。

---

## その他の情報

 『製品情報ガイド』には、安全および認可機関に関する情報が記載されています。保証に関する情報については、『サービス&サポートのご案内』を参照してください。

- 1 システムをラックに取り付ける方法については、ラックに付属の『ラック取り付けガイド』に説明があります。
- 1 『はじめに』では、最初にシステムをセットアップする場合の概要を説明しています。
- 1 『インストール&トラブルシューティング』では、システムのトラブルシューティング方法、およびシステムコンポーネントの取り付けや交換方法について説明しています。
- 1 システムに付属の CD には、システムの設定と管理に使用するマニュアルやツールが収録されています。
- 1 システム管理ソフトウェアのマニュアルでは、システム管理ソフトウェアの機能、動作要件、インストール、および基本操作について説明しています。
- 1 オペレーティングシステムのマニュアルでは、オペレーティングシステムソフトウェアのインストール手順(必要な場合)や設定方法、および使い方について説明しています。
- 1 システムとは別に購入したコンポーネントのマニュアルでは、購入したオプション装置の取り付けや設定について説明しています。
- 1 システム、ソフトウェア、またはマニュアルの変更に關して記載されたアップデート情報がシステムに付属していることがあります。

 **メモ:** アップデートには他の文書の内容を差し替える情報が含まれている場合がよくありますので、[support.dell.com](http://support.dell.com) でアップデートがないかどうかを常に確認し、初めにお読みください。

- 1 リリースノートまたは readme ファイルには、システムまたはマニュアルの最新のアップデート情報や、専門知識をお持ちのユーザーや技術者のための高度な技術情報が含まれています。

---

## テクニカルサポートの利用法

このガイドの手順が理解できない場合やシステムが思ったとおりに動作しない場合は、『インストール&トラブルシューティング』を参照してください。

デルでは、企業向けのトレーニングと資格認証を実施しています。詳細については、[www.dell.com/training](http://www.dell.com/training) を参照してください。このサービスは、ご利用いただけない地域があります。

---

[メモ、注意および警告](#)



[メモ、注意および警告](#)

## セットアップユーティリティの使い方

Dell™ PowerEdge™ 850 システム ユーザーズガイド

- [セットアップユーティリティの起動](#)
- [セットアップユーティリティのオプション](#)
- [システムパスワードとセットアップパスワードの機能](#)
- [忘れてしまったパスワードの無効化](#)
- [ベースボード管理コントローラの設定](#)

システムのセットアップを完了したら、セットアップユーティリティを起動して、システム設定およびオプション設定を確認します。表示された情報を将来の参考のために記録しておきます。

セットアップユーティリティは、次のような場合に使用します。

- 1 ハードウェアを追加、変更、または取り外した後に、NVRAM に保存されたシステム設定を変更する。
- 1 時刻や日付などのユーザーが選択可能なオプションを設定または変更する。
- 1 内蔵デバイスを有効または無効にする。
- 1 取り付け付けたハードウェアと設定との間の不一致を修正する。


---

## セットアップユーティリティの起動

1. システムの電源を入れるか、再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたら、ただちに <F2> を押します。


<F2> = System Setup

<F2> を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、もう一度システムを再起動し、この手順を実行してください。

 **メモ:** システムシャットダウンの正しい順序を確認するには、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

## エラーメッセージへの対応

特定のエラーメッセージに対応することによって、セットアップユーティリティを起動できます。システムの起動中にエラーメッセージが表示された場合は、メッセージをメモしてください。セットアップユーティリティを起動する前に、『インストール & トラブルシューティング』の「システムビープコード」および「システムメッセージ」を参照して、メッセージの意味やエラーの修正方法を調べてください。


 **メモ:** メモリのアップグレード後、最初にシステムを起動する際に、システムメッセージが表示されるのは正常です。

## セットアップユーティリティの使い方

[表 2-1](#) に、セットアップユーティリティ画面で情報の表示や変更、プログラムの終了などに使用するキーの一覧を示します。

**表 2-1 セットアップユーティリティの操作キー**

キー	対応処置
上矢印または <Shift> <Tab>	前のフィールドに移動します。
下矢印または <Tab>	次のフィールドへ移動します。
スペースキー、<+>、<->、および左右矢印	フィールド内の設定値を順に切り替えます。多くのフィールドでは、適切な値を入力することもできます。
<Esc>	セットアップユーティリティを終了し、設定を変更した場合は、システムを再起動します。
<F1>	セットアップユーティリティのヘルプファイルを表示します。

 **メモ:** ほとんどのオプションでは、変更内容は自動的に記録されますが、システムを再起動するまでは有効になりません。

---

## セットアップユーティリティのオプション

### メイン画面

セットアップユーティリティを起動すると、セットアップユーティリティのメイン画面が表示されます( [図 2-1](#) を参照)。

図2-1 セットアップユーティリティのメイン画面

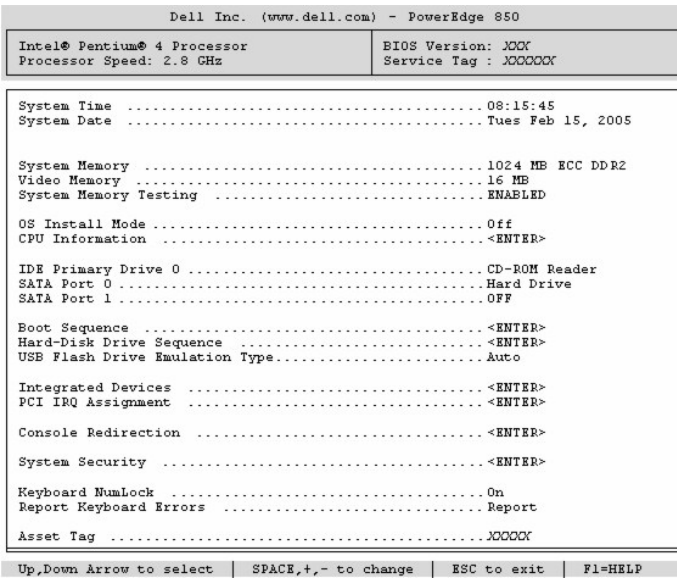


表 2-2 に、セットアップユーティリティのメイン画面に表示される情報フィールドのオプションの一覧および説明を示します。


 **メモ:** 必要に応じて、セットアップユーティリティのデフォルト設定をそれぞれのオプションの下に示します。

表 2-2 セットアップユーティリティのオプション

オプション	説明
System Time	システム内蔵時計の時刻をリセットします。
System Date	システム内蔵カレンダーの日付をリセットします。
System Memory	システムメモリの容量を表示します。このオプションにはユーザーが選択できる設定はありません。
Video Memory	ビデオメモリの容量を表示します。このオプションにはユーザーが選択できる設定はありません。
System Memory Testing (デフォルトは Enabled)	POST 中にメモリのテストをすかどうかを決めます。
OS Install Mode(デフォルトは Off)	オペレーティングシステムで利用可能なメモリの最大容量を指定します。On は最大容量を 256 MB に設定します。Off に設定すると、すべてのシステムメモリをオペレーティングシステムで利用できるようになります。一部のオペレーティングシステムは、2 GB を超えるシステムメモリが割り当てられるとインストールできません。オペレーティングシステムのインストール中はこのオプションを有効(On)にし、インストールが終了したら無効(Off)にします。
CPU Information	<a href="#">「CPU Information 画面」</a> を参照してください。
IDE Primary Drive 0 (Auto)	Drive 0(オプティカルドライブ)内の IDE デバイスを有効(Auto)または無効(Off)にします。
SATA Port (0 - 1) (Auto)	Port 0 内の SATA ハードドライブを有効(Auto)または無効(Off)にします。
Boot Sequence	システム起動時にシステムが起動デバイスを検索する順番を指定します。利用可能なオプションは、ディスクドライブ、CDドライブ、ハードドライブ、およびネットワークです。
Hard-Disk Drive Sequence	システム起動時にシステムがハードドライブを検索する順番を指定します。ご使用のシステムに取り付けられているハードドライブによって、選択肢が異なります。
USB Flash Drive Emulation Type(デフォルトは Auto)	USB フラッシュドライブのエミュレーションタイプを指定します。Hard disk を指定すると、USB フラッシュドライブがハードディスクとして動作します。Auto ではエミュレーションタイプが自動選択されます。
Integrated Devices	<a href="#">「Integrated Devices 画面」</a> を参照してください。
PCI IRQ Assignment	PCI バス上の各内蔵デバイスに割り当てられている IRQ、および IRQ を必要とするすべての搭載済み拡張カードが変更できる画面を表示します。
Console Redirection	<a href="#">「Console Redirection 画面」</a> を参照してください。
System Security	システムパスワードおよびセットアップパスワード機能を設定する画面を表示します。詳細については、「 <a href="#">システムパスワードの使い方</a> 」および「 <a href="#">セットアップパスワードの使い方</a> 」を参照してください。
Keyboard NumLock(デフォルトは On)	101 または 102 キーのキーボードで、起動時に NumLock モードを有効にするかどうかを指定します(84 キーのキーボードには適用されません)。
Report Keyboard Errors (デフォルトは Report)	POST 中のキーボードエラーの報告を有効または無効にします。キーボードが取り付けられたホストシステムでは、このオプションを有効にします。Do Not Report を選択すると、POST 中に検出されたキーボードまたはキーボードコントローラに関連するすべてのエラーメッセージが省略されます。キーボードがシステムに取り付けられている場合、この設定はキーボード自体の操作には影響しません。
Asset Tag	管理タグ番号が割り当てられている場合、ユーザーがプログラム可能なシステムの管理タグ番号を表示します。

## CPU Information 画面

表 2-3 に、CPU Information 画面の情報フィールドに表示されるオプションの一覧および説明を示します。

表 2-3 CPU Information 画面

オプション	説明
Bus Speed	プロセッサのバス速度を表示します。
Logical Processor (デフォルトは Enabled)	プロセッサがハイパースレッディングテクノロジーをサポートしている場合にのみ表示されます。Enabled にすると、オペレーティングシステムがすべての論理プロセッサを使用できます。Disabled を選択すると、オペレーティングシステムは最初の論理プロセッサだけを使用します。
Demand-Based Power Management (デフォルトは Disabled)	Enabled に設定すると、CPU パフォーマンス状態のテーブルがオペレーティングシステムに報告されます。Disabled に設定すると、CPU パフォーマンス状態のテーブルはオペレーティングシステムに報告されません。 プロセッサが Demand-Based Power Management に対応していない場合、このフィールドは読み取り専用となります。
Processor 1 ID	各プロセッサのファミリーとモデル番号を表示します。
Core Speed	プロセッサのクロック速度を表示します。
Level 2 Cache	プロセッサのキャッシュメモリ容量を表示します。
64-Bit Technology	取り付けられているプロセッサが Intel 64 ビット拡張をサポートするかどうかを示します。

## Integrated Devices 画面

表 2-4 に、Integrated Devices 画面に表示される情報フィールドのオプションの一覧および説明を示します。

表 2-4 Integrated Devices 画面のオプション

オプション	説明
IDE Controller (デフォルトは Auto)	内蔵 IDE コントローラが有効になります。Auto に設定すると、IDE デバイスがチャンネルに接続されていて外付け IDE コントローラが検出されない場合、内蔵 IDE コントローラの各チャンネルは有効になります。
SATA Controller (デフォルトは ATA)	内蔵 SATA コントローラを Off または ATA Mode に設定できるようにします。Off では SATA サブシステムが無効になります。ATA Mode では SATA サブシステムが Native IDE モードに設定されます。
USB Controller (デフォルトは On with BIOS support)	システムの USB ポートを有効または無効にします。オプションは、On with BIOS support、On without BIOS support、または Off です。USB ポートを無効にするとその他のデバイスがシステムリソースを利用できるようになります。
Embedded Gb NIC (デフォルトは Enabled with PXE)	システムの内蔵ネットワークインタフェースコントローラ (NIC) を有効または無効にします。オプションは Enabled with PXE および Disabled です。PXE をサポートしている場合は、ネットワークからシステムを起動できます。変更はシステムの再起動後に有効になります。
MAC Address	内蔵 10/100/1000 NIC の MAC アドレスを表示します。このフィールドには、ユーザーが選択できる設定はありません。
Secondary Embedded Gb NIC	システムのセカンダリ内蔵ネットワークインタフェースコントローラ (NIC) を有効または無効にします。オプションは Enabled without PXE および Disabled です。PXE をサポートしている場合は、ネットワークからシステムを起動できます。変更はシステムの再起動後に有効になります。
Secondary NIC MAC Address	セカンダリ内蔵 10/100/1000 NIC の MAC アドレスを表示します。このフィールドには、ユーザーが選択できる設定はありません。
Serial Port (デフォルトは COM1)	シリアルポート 1 のオプションは、COM1、COM3、BMC Serial、BMC NIC、および Off です。オプションのリモートアクセスコントローラ (RAC) をシステムに取り付けた場合、RAC がオプションに追加されます。 シリアルポート 1 は用途の異なる 3 種類のモデルが共有します。標準用途では、シリアルポート 1 は、最初に COM1、次に COM3 の使用を試みます。BMC の用途ではシリアルポート 1 は COM1 アドレスを使用し、シリアルポートまたは共有する内蔵 NIC のどちらかを經由して通信します。RAC による制御では COM1 アドレスだけを使用します。 Console Redirection が Serial Port 1 を使用するよう設定されている場合、Off および COM3 のオプションは使えません。
Speaker (デフォルトは On)	システム内蔵スピーカーを有効または無効にします。

## Console Redirection 画面

表 2-5 に、Console Redirection 画面に表示される情報フィールドのオプションの一覧および説明を示します。

表 2-5 Console Redirection 画面のオプション

オプション	説明
Console Redirection (デフォルトは On)	コンソールリダイレクション機能の On または Off を切り替えます。
Failsafe Baud Rate (デフォルトは 11520)	コンソールリダイレクションにフェールセーフボーレートを使用する場合に表示されます。
Remote Terminal Type (デフォルトは VT 100/VT 220)	VT 100/VT 220 または ANSI を選択します。
Redirection After Boot (デフォルトは Enabled)	システム再起動後、コンソールリダイレクションを有効または無効にします。

## System Security 画面

表 2-6 に、System Security 画面の情報フィールドに表示されるオプションの一覧および説明を示します。

表2-6 System Security 画面のオプション

オプション	説明
System Password	システムのパスワードセキュリティ機能の現在の状態を表示し、新しいシステムパスワードを設定して確認することができます。  <b>メモ:</b> システムパスワードの設定、および既存のシステムパスワードの使用または変更の手順については、「 <a href="#">システムパスワードの使い方</a> 」を参照してください。
Setup Password	システムパスワード機能を使用してシステムへのアクセスを制限するのと同じ要領で、セットアップユーティリティへのアクセスを制限できます。  <b>メモ:</b> セットアップパスワードの設定、および既存のセットアップパスワードの使用または変更の手順については、「 <a href="#">セットアップパスワードの使い方</a> 」を参照してください。
Password Status	<b>Setup Password</b> オプションを <b>Enabled</b> に設定すると、システム起動時にシステムパスワードを変更したり無効にしたりできなくなります。  システムパスワードをロックするには、まず <b>Setup Password</b> オプションでセットアップパスワードを設定し、次に <b>Password Status</b> オプションを <b>Locked</b> に変更します。この状態では、 <b>System Password</b> オプションを使用してシステムパスワードを変更したり、<Ctrl><Enter> を押してシステム起動時にパスワードを無効にすることはできません。  システムパスワードのロックを解除するには、まず <b>Setup Password</b> フィールドでセットアップパスワードを入力し、次に <b>Password Status</b> オプションを <b>Unlocked</b> に変更します。この状態では、<Ctrl><Enter> を押してシステム起動時にシステムパスワードを無効にし、次に <b>System Password</b> オプションを使用してシステムパスワードを変更することができます。
Power Button	システムの電源を切ったり入れたりする電源ボタンの機能を設定します。  <ol style="list-style-type: none"><li>電源ボタンを使用してシステムの電源を切る際に、ACPI 対応のオペレーティングシステムを実行している場合、システムは電源が切れる前に正常なシャットダウンを実行することができます。</li><li>システムが ACPI 対応のオペレーティングシステムを実行していない場合は、電源ボタンを押すとただちに電源が切れます。</li></ol> 電源ボタンは、セットアップユーティリティで有効にします。無効に設定すると、電源ボタンはシステムの電源を入れる場合にのみ使用できます。  <b>メモ:</b> <b>Power Button</b> オプションが <b>Disabled</b> に設定されていても、電源ボタンを使ってシステムをオンにすることは可能です。
NMI Button	このフィールドを使って、正面パネルの NMI ボタンを有効または無効にできます。  <b>注意:</b> NMI ボタンは、認定を受けたサポート担当者またはオペレーティングシステムのマニュアルによって指示された場合のみ使用してください。このボタンを押すと、オペレーティングシステムが停止し、診断プログラム画面が表示されます。  NMI 機能を <b>On</b> または <b>Off</b> に設定します。
AC Power Recovery (デフォルトは Last)	システムの電源が回復した場合のシステムの動作を設定します。オプションが <b>Last</b> に設定されている場合、システムは電源が中断される直前の電源状態に戻ります。 <b>On</b> では電源回復時にシステムの電源が入ります。 <b>Off</b> では、電源が回復してもシステムの電源は切れたままです。

## Exit 画面

<Esc> を押してセットアップユーティリティを終了すると、Exit 画面に次のオプションが表示されます。

- Save Changes and Exit (変更を保存して終了)
- Discard Changes and Exit (変更を破棄して終了)
- Return to Setup (セットアップへ戻る)

## システムパスワードとセットアップパスワードの機能

- 注意:** パスワード機能は、システム内のデータに対して基本的なセキュリティを提供します。より強固なセキュリティが必要なデータについては、データ暗号化プログラムなどの保護機能を別途使用してください。
- 注意:** システムパスワードを設定せずに動作中のシステムから離れたり、システムをロックせずに放置した場合、第三者がジャンパの設定を変更して、パスワード機能を無効にすることができます。この結果、誰でもシステムに保存された情報にアクセスできるようになります。

ご使用のシステムは、出荷時にはシステムパスワード機能が有効になっていません。システムのセキュリティが必要な場合、システムパスワード保護機能を有効にしてシステムを操作してください。

既存のパスワードを変更したり削除したりするには、そのパスワードを事前知っておく必要があります(「[既存のシステムパスワードの削除または変更](#)」を参照)。パスワードを忘れると、トレーニングを受けたサービス技術者がパスワードジャンパの設定を変更してパスワードを無効にし、既存のパスワードを消去するまで、システムを操作したり、セットアップユーティリティの設定を変更することはできません。この手順は、『インストール&トラブルシューティング』に記載されています。

## システムパスワードの使い方

システムパスワードを設定すると、パスワードを知っているユーザーでなければ、システムの全機能を使用することはできません。System Password オプションが Enabled に設定されている場合、システムパスワード要求のプロンプトがシステムの起動後に表示されます。

### システムパスワードの設定

システムパスワードを設定する前に、まずセットアップユーティリティを起動して、System Password オプションを確認します。

システムパスワードが設定されている場合、System Password オプションの設定は Enabled です。Password Status が Unlocked に設定されている場合、システムパスワードは変更できます。Password Status オプションが Locked に設定されている場合、システムパスワードは変更できません。ジャンパ設定によってシステムパスワード機能が無効になっている場合、その設定は Disabled で、システムパスワードを変更したり新しいシステムパスワードを入力したりすることはできません。

システムパスワードが設定されておらず、システム基板上のパスワードジャンパが有効な位置(デフォルト)に設定されている場合、System Password オプションは Not Enabled と表示され、Password Status フィールドは Unlocked と表示されます。システムパスワードを設定するには、次の手順を実行します。

1. Password Status オプションが Unlocked に設定されていることを確認します。
2. System Password オプションをハイライト表示して、<Enter> を押します。
3. このフィールドに新しいシステムパスワードを入力します。

パスワードは半角の英数字で 32 文字まで入力できます。

いずれかの文字キー(またはブラックスペースとしてスペースキー)を押すと、フィールドには文字の代わりにプレースホルダが表示されます。


パスワードの設定では、大文字と小文字は区別されません。ただし無効なキーの組み合わせもあります。そのような組み合わせで入力すると、ビーブ音が鳴ります。入力したパスワードを訂正するには、<Backspace> または左矢印キーを押して文字を消去します。

 **メモ:** システムパスワードの設定を途中で中止したい場合は、手順 5 を終了する前に <Enter> を押して別のフィールドに移動するか <Esc> を押します。


4. <Enter> を押します。
5. パスワードを確認するために、もう一度同じパスワードを入力して、<Enter> を押します。

System Password の設定表示が Enabled に変わります。セットアップユーティリティを終了して、システムを使用します。

6. ここでシステムを再起動してパスワード保護機能を有効にするか、作業を続けます。

 **メモ:** システムを再起動するまでパスワード保護機能は有効になりません。

### システムを保護するためのシステムパスワードの使い方

 **メモ:** セットアップパスワードを設定している場合(「[セットアップパスワードの使い方](#)」を参照)、システムはセットアップパスワードをシステムパスワードの代用として受け付けます。

Password Status オプションが Unlocked に設定されている場合は、パスワードセキュリティを有効のままにしておくことも無効にすることもできます。

パスワードセキュリティを有効のままにしておくには、次の手順を実行します。

1. システムの電源を入れるか、<Ctrl><Alt><Del> を押してシステムを再起動します。
2. パスワードを入力し、<Enter> を押します。

パスワードセキュリティを無効にするには、次の手順を実行します。

1. システムの電源を入れるか、<Ctrl><Alt><Del> を押してシステムを再起動します。
2. パスワードを入力し、<Ctrl><ENTER> を押します。

システムを起動したり <Ctrl><Alt><Del> を押して再起動したりするたびに Password Status オプションが Locked に設定される場合は、プロンプト画面でパスワードを入力して <Enter> を押します。

正しいシステムパスワードを入力して <Enter> を押すと、システムは通常どおりに動作します。

間違ったシステムパスワードを入力すると、パスワードの再入力を求めるメッセージが表示されます。3 回目までに正しいパスワードを入力してください。間違ったパスワードを 3 回入力すると、間違ったパスワードの入力回数とシステムの停止を示すエラーメッセージが表示され、システムが停止し、シャットダウンします。このメッセージは、何者かが無許可でシステムの使用を試みたことを示す警告となります。

システムをシャットダウンして再起動しても、正しいパスワードを入力するまで、このエラーメッセージが表示されます。

 **メモ:** Password Status オプションの他に System Password と Setup Password オプションも併用すると、無許可の変更からシステムを保護することができます。

## 既存のシステムパスワードの削除または変更


1. プロンプトが表示されたら、<Ctrl><Enter> を押して既存のシステムパスワードを無効にします。  
セットアップパスワードを入力するよう求められた場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。
2. POST 中に <F2> を押して、セットアップユーティリティを起動します。
3. System Security 画面フィールドを選択して、Password Status オプションが Unlocked に設定されていることを確認します。
4. プロンプトが表示されたら、システムパスワードを入力します。
5. System Password オプションに Not Enabled と表示されていることを確認します。

System Password オプションに Not Enabled と表示されている場合、システムパスワードは削除されています。System Password オプションに Enabled が表示されている場合は、<Alt><b> を押してシステムを再起動し、手順 2～手順 5 を繰り返します。

## セットアップパスワードの使い方

### セットアップパスワードの設定

セットアップパスワードは、Setup Password オプションが Not Enabled に設定されている場合にのみ、設定(または変更)できます。セットアップパスワードを設定するには、Setup Password オプションをハイライト表示して、<+> または <-> キーを押します。パスワードの入力と確認を求めるプロンプトが表示されます。パスワードに使用できない文字を指定すると、警告のビーブ音が鳴ります。

 **メモ:** セットアップパスワードとシステムパスワードを同じにすることもできます。2 つのパスワードを別にした場合、セットアップパスワードはシステムパスワードの代わりに使用できます。ただし、システムパスワードをセットアップパスワードの代わりに使用することはできません。

パスワードは半角の英数字で 32 文字まで入力できます。

いずれかの文字キー(またはブランクスペースとしてスペースキー)を押すと、フィールドには文字の代わりにブレースホルダが表示されます。

パスワードの設定では、大文字と小文字は区別されません。ただし無効なキーの組み合わせもあります。そのような組み合わせで入力すると、ビーブ音が鳴ります。入力したパスワードを訂正するには、<Backspace> または左矢印キーを押して文字を消去します。


パスワードの確認が終わると、Setup Password の設定は Enabled に変わります。次にセットアップユーティリティを起動すると、セットアップパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

Setup Password オプションの変更は、ただちに有効になります(システムを再起動する必要はありません)。

### セットアップパスワードが有効な場合の操作

Setup Password が Enabled に設定されている場合、正しいセットアップパスワードを入力しないと、ほとんどのセットアップオプションは変更できません。セットアップユーティリティを起動すると、パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

3 回目までに正しいパスワードを入力しないと、セットアップ画面は表示されますが、変更することはできません。ただし例外として、System Password が Enabled に設定されておらず、また Password Status オプションを使用してロックされていない場合、システムパスワードを設定できます(ただし、既存のシステムパスワードを無効にしたり変更することはできません)。

 **メモ:** Setup Password オプションと Password Status オプションを併用すると、無許可の変更からシステムパスワードを保護することができます。

### 既存のセットアップパスワードの削除または変更

1. セットアップユーティリティを起動して、System Security オプションを選択します。
2. Setup Password オプションをハイライト表示し、<Enter> を押してセットアップパスワードウィンドウにアクセスし、<Enter> を 2 回押して既存のセットアップパスワードをクリアします。  
設定が Not Enabled に変わります。
3. 新しいセットアップパスワードを設定する場合は、「[セットアップパスワードの設定](#)」の手順を実行します。

---

## 忘れてしまったパスワードの無効化


『インストール & トラブルシューティング』を参照してください。

---

## ベースボード管理コントローラの設定

ベースボード管理コントローラ(BMC)を使用すると、システムの設定、監視、回復をリモートで行うことができます。BMC には以下の機能があります。

- 1 システムのシリアルポートと内蔵 NIC の使用
- 1 障害の記録と SNMP 警告
- 1 システムイベントログとセンサーステータスへのアクセス
- 1 電源オンとオフを含むシステム機能の制御
- 1 システムの電源および動作状態とは独立したサポート
- 1 セットアップユーティリティ、テキストベースのユーティリティ、およびオペレーティングシステムコンソールに対するテキストコンソールリダイレクション

 **メモ:** 内蔵 NIC を通じて BMC にリモートでアクセスするには、内蔵 NIC1 とのネットワーク接続が必要です。

BMC の使い方の詳細については、BMC とシステム管理アプリケーションのマニュアルを参照してください。

## BMC セットアップモジュールの起動

1. システムの電源を入れるか、再起動します。
2. POST 後、プロンプトが表示されたときに、<Ctrl-E> を押します。  
  
<Ctrl-E> を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、もう一度システムを再起動して、この手順を実行してください。

## BMC セットアップモジュールのオプション

BMC セットアップモジュールのオプションの一覧と EMP(緊急管理ポート)の設定方法の詳細については、『BMC ユーザーズガイド』を参照してください。

---

[メモ、注意および警告](#)

## 用語集

### Dell™ PowerEdge™ 850 システム ユーザーズガイド

ここではシステムマニュアルで使用される技術用語、略語の意味を示します。

A— Ampere (アンペア)。
AC— Alternating current (交流)。
ACPI— Advanced Configuration and Power Interface。オペレーティングシステムで設定と電力管理を実行するための標準インタフェースです。
ANSI— American National Standards Institute (米国規格協会)。米国の主要技術標準開発機関です。
ASCII— American Standard Code for Information Interchange (情報交換用米国標準コード)。
BIOS— Basic Input/Output System (基本入出力システム)。システムの BIOS は、フラッシュメモリチップに格納された複数のプログラムから成ります。BIOS は、次の事項を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>1 プロセッサと周辺機器との間の通信</li> <li>1 システムメッセージなどの種々の機能</li> </ul>
BMC— Baseboard management controller (ベースボード管理コントローラ)。
BTU— British thermal unit (英国熱量単位)。
C— Celsius (セルシウス、摂氏)。
CD— Compact Disc (コンパクトディスク)。CD ドライブでは光学技術を利用して、CD からデータを読み取ります。
cm— センチメートル。
CMOS— Complementary metal-oxide semiconductor (相補型金属酸化膜半導体)。
COM <i>n</i> — コンピュータのシリアルポートに対するデバイス名 ( <i>n</i> は整数値)。
CPU— Central processing unit (中央演算処理装置)。「プロセッサ」を参照してください。
DC— Direct current (直流)。
DDR— Double-data rate (ダブルデータ速度)。出力を 2 倍にできるメモリモジュールの技術です。
DHCP— Dynamic Host Configuration Protocol (ダイナミックホスト設定プロトコル)。クライアントシステムに自動的に IP アドレスを割り当てるための方法です。
DIMM— Dual In-line Memory Module (デュアルインラインメモリモジュール)。「メモリモジュール」も参照してください。
DIN— Deutsche Industrie Norm (ドイツ工業規格)。
DMA— Direct Memory Access (ダイレクトメモリアクセス)。DMA チャネルを使用すると、RAM とデバイス間で特定のタイプのデータ転送を、プロセッサを介さずに直接行うことができます。
DMI— Desktop Management Interface。DMI を使用すれば、オペレーティングシステム、メモリ、周辺機器、拡張カード、管理タグなどのシステムコンポーネントに関する情報を集めて、コンピュータシステムのソフトウェアとハードウェアを統合的に管理することができます。
DNS— Domain Name System (ドメインネームシステム)。たとえば <a href="http://www.dell.com">www.dell.com</a> のようなインターネットのドメインネームを 143.166.83.200 のような IP アドレスに変換する方法です。
DRAM— Dynamic random-access memory (ダイナミック RAM)。通常、システムの RAM は DRAM チップのみで構成されます。
DVD— Digital versatile disc。
ECC— Error checking and correction (エラーチェックおよび訂正)。
EEPROM— Electrically Erasable Programmable Read-Only Memory (電氣的消去可能なプログラマブル読み取り専用メモリ)。
EMC— Electromagnetic compatibility (電磁整合性)。
EMI— Electromagnetic interference。
ERA— Embedded Remote Access。ERA により、リモートアクセスコントローラを使用してネットワークサーバーをリモート管理(帯域外管理)できます。
ESD— Electrostatic discharge (静電放電)。
ESM— Embedded server management (組み込み型サーバー管理)。
F— Fahrenheit (ファーレンハイト、華氏)。
FAT— File Allocation Table (ファイルアロケーションテーブル)。FAT はファイル保存の記録と管理のために MS-DOS で使用されるファイルシステム構造です。Microsoft® Windows® オペレーティングシステムでは、オプションとして FAT ファイルシステムを使用できます。
FSB— Front-side bus (フロントサイドバス)。プロセッサとメインメモリ (RAM) 間のデータ伝送路および物理インタフェースです。
ft— Feet (フィート)。
FTP— File transfer protocol (ファイル転送プロトコル)。
g— Gram (グラム)。
G— Gravity (重力加速度)。
Gb— Gigabit (ギガビット)。1 Gb = 1024 Mb = 1,073,741,824 ビット。
GB— Gigabyte (ギガバイト)。1 GB = 1024 MB = 1,073,741,824 バイト。ただし、ハードドライブの容量を表すときには、1000 MB (10 億バイト) を意味する場合があります。
h— Hexadecimal (16 進)。16 進法は 16 を基数にした記数法で、コンピュータの RAM アドレスやデバイスの I/O メモリアドレスを識別するためにプログラミングでよく使用されます。一般に 16 進数の後には <i>h</i> を付けて表記します。
Hz— Hertz (ヘルツ)。
I/O— Input/Output (入出力)。キーボードは入力デバイスで、プリンタは出力デバイスです。一般に、I/O 処理は計算処理とは区別されます。
ID— Identification (識別)。
IDE— Integrated drive electronics。システム基板とストレージデバイス間の標準インタフェースです。



IP	Internet Protocol (インターネットプロトコル)。
IPX	Internet package exchange (インターネットパケット交換)。
IRQ	Interrupt Request (割り込み要求)。周辺機器がデータを送信または受信しようとする場合、必要な処理をプロセッサに要求する信号が IRQ 信号線を介して送られます。コンピュータに接続する各周辺機器には IRQ 番号を割り当てする必要があります。2 つの機器が同じ IRQ 番号を共有することはできませんが、両方の機器を同時に動作させることはできません。
K	kilo (キロ)。1,000 を表します。
Kb	Kilobit (キロビット)。1 Kb = 1024 ビット。
KB	Kilobyte (キロバイト)。1 KB = 1024 バイト。
Kbps	Kilobits per second (1 秒あたりのキロビット数)。
KBps	Kilobytes per second (1 秒あたりのキロバイト数)。
kg	kilogram (キログラム)。1 kg = 1000 グラム。
kHz	Kilohertz (キロヘルツ)。
KMM	Keyboard/Monitor/Mouse (キーボード / モニタ / マウス)。
KVM	Keyboard/Video/Mouse (キーボード / ビデオ / マウス)。KVM は、キーボード、マウス、ディスプレイを共有する複数のコンピュータを切り替えて使用するための装置です。
LAN (ラン)	Local Area Network (ローカルエリアネットワーク)。通常、LAN のシステム構成は同じ建物内部または隣接した少数の建物に限定され、すべての装置が LAN 専用のケーブルで接続されます。
lb	Pound (ポンド)。
LCD	Liquid crystal display (液晶ディスプレイ)。
LED	Light-emitting diode (発光ダイオード)。電流が流れると点灯する電子部品です。
Linux	多様なハードウェアシステムで実行可能な UNIX® 互換のオペレーティングシステム。Linux はソースコードが公開されているソフトウェアで、無償で入手できます。ただし、Red Hat Software 社などでは、Linux のさまざまなソフトウェアを含む配布パッケージとともに、テクニカルサポートとトレーニングを有償で提供しています。
LVD	Low voltage differential (低電圧ディファレンシャル)。
m	Meter (メートル)。
mA	Milliampere (ミリアンペア)。
MAC アドレス	Media Access Control (メディアアクセスコントロール) アドレス。ネットワーク上のシステムのハードウェアに付けられた固有の番号です。
mAh	Milliampere-hour (ミリアンペア時)。
Mb	Megabit (メガビット)。1 Mb = 1,048,576 ビット。
MB	Megabyte (メガバイト)。1 MB = 1,048,576 バイト。ただし、ハードドライブの容量を表すときには、1 MB = 1,000,000 バイトを意味する場合もあります。
Mbps	Megabits per second (メガビット / 秒)。
MBps	Megabytes per second (メガバイト / 秒)。
MBR	Master boot record (マスターブートレコード)。
MHz	Megahertz (メガヘルツ)。
mm	Millimeter (ミリメートル)。
ms	Millisecond (ミリ秒)。
MS-DOS®	Microsoft Disk Operating System (マイクロソフトディスクオペレーティングシステム)。
NAS	Network Attached Storage (ネットワーク接続ストレージ)。ネットワーク上に共有ストレージを実現するのに使用される概念です。NAS システムには、ファイルサーバー専用で最適化されたオペレーティングシステム、内蔵ハードウェア、およびソフトウェアが搭載されています。
NIC	Network Interface Controller (ネットワークインタフェースコントローラ)。コンピュータに取り付けられたネットワーク接続用のデバイスです。
NMI	Nonmaskable interrupt (マスク不能割り込み)。デバイスは NMI を送信して、ハードウェアエラーをプロセッサに知らせます。
ns	Nanosecond (ナノ秒)。
NTFS	NT File System (NT ファイルシステム)。Windows 2000 オペレーティングシステムではオプションのファイルシステムです。
NVRAM	Nonvolatile random access memory (不揮発性ランダムアクセスメモリ)。コンピュータの電源を切っても情報が失われないメモリです。NVRAM は、日付、時刻、システム設定情報の保持に使用されます。
PCI	Peripheral Component Interconnect。標準のローカルバス規格です。
PDU	Power distribution unit (配電ユニット)。PDU は、複数のコンセントの付いた電源で、ラック内のサーバーやストレージシステムに電力を供給します。
PGA	Pin grid array (ピングリッドアレイ)。プロセッサチップの取り外しが可能なプロセッサソケットです。
POST	Power-on self-test (電源投入時の自己診断)。コンピュータの電源を入ると、オペレーティングシステムがロードされる前に、RAM、ディスクドライブ、キーボードなどのさまざまなシステムコンポーネントがテストされます。
PS/2	Personal System/2。
PXE	Preboot eXecution Environment。ハードドライブや起動用ディスクを使用せずに、LAN を介してシステムを起動する方法です。
RAC	Remote access controller (リモートアクセスコントローラ)。
RAID	Redundant array of independent disks。RAID はデータ冗長化により読み書きの速度や信頼性の向上を実現する技術です。普及している RAID には RAID 0、RAID 1、RAID 5、RAID 10、RAID 50 があります。「ガーディング」、「ミラーリング」、「ストライピング」も参照してください。
RAM	Random-access memory (ランダムアクセスメモリ)。プログラムの命令やデータを保存するシステムの主要な一次記憶領域。コンピュータの電源を切ると、RAM に保存されている情報はすべて失われます。
RAS	Remote Access Service (リモートアクセスサービス)。この機能によって、Windows オペレーティングシステムを実行しているコンピュータのユーザーは、モデムを使用して、ネットワークにリモートでアクセスできます。
readme ファイル	ソフトウェアやハードウェアの製品に付属しているテキストファイル。製品に関する補足情報やマニュアルのアップデート情報などが入っています。
ROM	Read-only memory (読み取り専用メモリ)。コンピュータのプログラムの中には、ROM コードで実行しなければならないものがあります。RAM とは異なり、コンピュータの電源を切っても、ROM チップの内容は保持されます。ROM コードの例には、コンピュータの起動ルーチンと POST を起動するプログラムなどがあります。
ROMB	RAID on motherboard (マザーボード上の RAID)。
rpm	Revolutions per minute (1 分あたりの回転数)。

RTC— Real-time clock (リアルタイムクロック)。
SATA— Serial Advanced Technology Attachment。システム基板とストレージデバイス間の標準インタフェースです。
SCSI— Small computer system interface。通常のポートよりも速いデータ転送レートを持つ I/O インタフェース。
SDRAM— Synchronous dynamic random-access memory (同期ダイナミックランダムアクセスメモリ)。
sec— Second(秒)。
SMART — Self-Monitoring Analysis and Reporting Technology の略語。ハードドライブにエラーや障害があった場合に、システム BIOS に報告し、画面にエラーメッセージを表示するための技術です。
SMP— Symmetric multiprocessing (対称型マルチプロセッシング)。高バンド幅のリンクを介して複数のプロセッサを接続し、各プロセッサが同等な立場で I/O 処理を行うようにオペレーティングシステムによって管理する技法です。
SNMP— Simple Network Management Protocol。ネットワーク管理者がリモートでワークステーションの監視および管理を行うための標準インタフェースです。
SVGA— Super video graphics array (スーパービデオグラフィックスアレイ)。VGA と SVGA は、従来の規格よりも高解像度の色表示機能を持つビデオアダプタに関するビデオ規格です。
system.ini ファイル— Windows オペレーティングシステム用のスタートアップファイル。Windows を起動すると、system.ini ファイルが参照されて、Windows 動作環境の各種オプションが設定されます。system.ini ファイルには、Windows 用にインストールされているビデオ、マウス、キーボードのドライバの種類に関する情報などが記録されています。
TCP/IP— Transmission Control Protocol/Internet Protocol (伝送制御プロトコル / インターネットプロトコル)。
UNIX— Universal Internet Exchange。UNIX は、Linux の基になったオペレーティングシステムで、C 言語で書かれています。
UPS — Uninterruptible power supply (無停電電源装置)。電氣的な障害が発生した場合に、システムの電源が切れないようにするためのバッテリー電源装置です。
USB— Universal Serial Bus。USB コネクタは、マウス、キーボードなど、USB 準拠の複数のデバイスに対応しています。USB デバイスはシステムの実行中でも取り付け、取り外しが可能です。
UTP— Unshielded twisted pair (シールドなしのツイストペア)。職場や家庭でシステムを電話回線に接続するために使用するケーブルです。
V — Volt (ボルト)。
VAC— Volt alternating current (交流電圧)。
VDC— Volt direct current (直流電圧)。
VGA— Video graphics array (ビデオグラフィックスアレイ)。VGA と SVGA は、従来の規格よりも優れた解像度と色表示機能を持つビデオアダプタに関するビデオ規格です。
W— Watt (ワット)。
WH— Watt-hour (ワット時)。
Windows 2000— MS-DOS を必要としない完成した総合的な Microsoft Windows オペレーティングシステム。パフォーマンスと使いやすさが向上し、ワークグループ機能が拡張され、ファイル管理および参照を簡単に行うことができます。
Windows Powered— NAS システム上で使用するために設計された Windows オペレーティングシステム。NAS システムの場合、Windows Powered オペレーティングシステムは、ネットワーククライアントのファイルサービスに特化しています。
Windows Server 2003— XML Web サービスを利用してソフトウェアの統合を図る Microsoft のソフトウェアテクノロジー。XML Web サービスは、XML 言語を使用して別々に開発された再利用可能な小型のアプリケーション群で、これを使用することで、元来送受信できないソース同士がネットワーク経由でデータを送受信することができます。
win.ini ファイル— Windows オペレーティングシステム用のスタートアップファイル。Windows を起動すると、win.ini ファイルが参照されて、Windows の操作環境に関する各種オプションが設定されます。また、win.ini ファイルには通常、ハードドライブにインストールされている Windows アプリケーションプログラムのオプションを設定するセクションも含まれています。
XML— Extensible Markup Language (拡張可能なマーク付け言語)。インターネット、イントラネット、その他のネットワークで形式とデータの両方を共有し、共通の情報形式を作成するための仕様です。
ZIF— Zero insertion force。
<b>アップリンクポート</b> — 別のハブまたはスイッチに接続する際に使用するネットワークハブまたはスイッチ上のポート。クロスケーブルを必要としません。
<b>アプリケーション</b> — ユーザーが特定のタスクまたは一連のタスクを実行するのを助けるためのソフトウェア。アプリケーションは、オペレーティングシステムの機能を利用して実行されます。
<b>ガーディング</b> — 複数の物理ドライブを一組にしてデータを格納し、さらにもう 1 台のドライブにバリエーションデータを格納するデータ冗長化の手法です。「ミラーリング」、「ストライピング」、「RAID」も参照してください。
<b>拡張カード</b> — NIC や SCSI アダプタなどの、システム基板上の拡張カードコネクタに差し込むアドインカード。拡張カードは、拡張バスと周辺機器間のインタフェースとして、システムに特別な機能を追加します。
<b>拡張カードコネクタ</b> — 拡張カードを差し込むシステム基板またはライザーボード上のコネクタ。
<b>拡張バス</b> — ご使用のシステムには、プロセッサがネットワークカードなどの周辺機器のコントローラと通信できるようにするための拡張バスがあります。
<b>管理タグ</b> — 通常はシステム管理者によって、セキュリティやトラッキングのためにコンピュータごとに割り当てられるコード。
<b>キーの組み合わせ</b> — 複数のキーを同時に押す必要があるコマンド。たとえば、<Ctrl><Alt><Del> のキーの組み合わせを押すとコンピュータを再起動できます。
<b>起動用ディスク</b> — ハードドライブから起動できない場合に、オペレーティングシステムの起動に使用します。
<b>起動ルーチン</b> — システム起動時に、すべてのメモリのクリア、デバイスの初期化、およびオペレーティングシステムのロードを行うプログラム。オペレーティングシステムが正常に応答する場合は、<Ctrl><Alt><Del> を押して再起動できます。これを「ウォームブート」といいます。ウォームブートできない場合は、リセットボタンを押すか、システムの電源をいったん切つてから入れ直して再起動します。
<b>キャッシュ</b> — データを高速検索できるように、データまたは命令のコピーを保持するための高速記憶領域。プログラムがディスクドライブにあるデータを要求すると、ディスクキャッシュユーティリティによって、ディスクドライブよりも高速な RAM 内のキャッシュ領域にコピーされた同じデータが読み取られます。
<b>グラフィックモード</b> — x 水平画素数、y 垂直画素数および z 色数で表されるビデオモードです。
<b>グループ</b> — DMI 関連では、グループは管理可能なコンポーネントについての共通の情報または属性を定義するデータ構造です。
<b>コプロセッサ</b> — コンピュータのプロセッサを特定の処理タスクから解放するためのチップ。たとえば、数値演算コプロセッサは数値演算処理を行います。
<b>コントローラ</b> — プロセッサとメモリ間、またはプロセッサと周辺機器間のデータ転送を制御するチップ。
<b>コントロールパネル</b> — 電源ボタン、電源インジケータなどの、ボタンやインジケータを収めたシステムの部品。
<b>コンベンショナルメモリ</b> — RAM の最初の 640 KB。コンベンショナルメモリはすべてのコンピュータに存在します。MS-DOS™ プログラムは、特別に設計されていない限り、コンベンショナルメモリ内でのみ実行されます。
<b>コンポーネント</b> — DMI 関連では、管理可能なコンポーネントには、オペレーティングシステム、コンピュータシステム、拡張カード、および DMI 対応の周辺機器が含まれます。各コンポーネントは、そのコンポーネントに関連したのとして定義されるグループおよび属性で構成されます。
<b>サービスタグ</b> — 弊社カスタマーサポートまたはテクニカルサポートにお問い合わせになる際に、コンピュータを識別するためのバーコードラベル。
<b>システム基板</b> — コンピュータの主要な回路基板であるシステム基板には、プロセッサ、RAM、周辺機器用コントローラ、各種 ROM チップなど、大部分の重要なコンポーネントが搭載されています。
<b>システム設定情報</b> — メモリに保存されたデータで、取り付けられているハードウェアの種類およびシステムの動作設定が記録されています。

<b>システムディスク</b> — 「起動用ディスク」を参照してください。
<b>システムメモリ</b> — 「RAM」を参照してください。
<b>ジャンパー</b> — 回路基板上の小さなブロック。2 本以上のピンが出ています。ピンにはワイヤを格納したプラスチック製のプラグが被せてあります。ワイヤはピン同士を接続して、回路を形成します。ジャンパーを使用すれば、基板の回路構成を簡単に変更できます。
<b>周囲温度</b> — システムが置かれている場所や部屋の温度。
<b>周辺機器</b> — コンピュータに接続される内蔵装置または外付け装置（ディスクドライブ、キーボードなど）。
<b>シリアル ポート</b> — 一般に、コンピュータにモデムを接続するとき使用される I/O ポート。コンピュータのシリアルポートは、9 ピンのコネクタが使用されていることで識別できます。
<b>診断プログラム</b> — システム用の総合テストセット。
<b>ストライピング</b> — 3 台以上のハードディスクドライブを並べて 1 台のディスクドライブのように使用し（これをディスクアレイといいます）、データを各ディスクに分割して読み書きの速度を向上させる技法です。ストライピングに使用される各ディスク内のスペース（ストライプ）は、各ディスクとも同じ容量です。仮想ディスクでは、ディスクアレイ内の一組のディスクのセットに対して複数のストライプを設定することもできます。「ガーディング」、「ミラーリング」、「RAID」も参照してください。
<b>セットアップユーティリティ</b> — コンピュータのハードウェア構成やパスワード保護などの機能を設定して、システムの動作をカスタマイズするための BIOS プログラム。セットアップユーティリティは NVRAM に保存されるため、設定は再度変更しない限り有効に維持されます。
<b>ターミネーター</b> — 一部のデバイス（SCSI ケーブルの終端に接続されるデバイスなど）では、ケーブル内信号反射や不正信号を防止するための終端処理が必要です。このようなデバイスを連結する場合は、ジャンパーまたはスイッチを変更するか、デバイスの設定ソフトウェアで設定を変更して、ターミネータを有効または無効にする必要があります。
<b>ディレクトリ</b> — ディレクトリを使用すると、関連性のあるファイルをディスク上で「逆ツリー」の階層構造に編成することができます。各ディスクには 1 つの「ルート」ディレクトリがあります。ルートディレクトリから分岐する下位のディレクトリは「サブディレクトリ」といいます。サブディレクトリの下には、さらに別のディレクトリが枝状につながっていることもあります。
<b>デバイスドライバ</b> — オペレーティングシステムやプログラムが周辺機器と正しくインタフェースできるようにするためのプログラム。デバイスドライバには、ネットワークドライバのように、システム起動時に config.sys ファイルからロードされるものや、（通常 autoexec.bat ファイルによって）メモリ常驻プログラムとしてロードされるものがあります。その他のドライバは、各プログラムの起動時にロードされます。
<b>内蔵プロセッサキャッシュ</b> — プロセッサに内蔵された命令キャッシュとデータキャッシュ。
<b>内蔵ミラーリング</b> — 内蔵ミラーリングによって 2 台のドライブを同時に物理的にミラーリングすることができます。内蔵ミラーリング機能はコンピュータのハードウェアによって実現されます。「ミラーリング」も参照してください。
<b>パーティション</b> — fdisk コマンドを使用すると、パーティションと呼ばれる複数の物理セクションにハードドライブを分割できます。各パーティションには複数の論理ドライブを格納できます。各論理ドライブは format コマンドを使用してフォーマットする必要があります。
<b>バス</b> — コンピュータ内部の各コンポーネント間のデータ伝送経路。たとえば、拡張バスは、プロセッサがコンピュータに接続された周辺機器用のコントローラと通信するための経路です。また、アドレスバスとデータバスは、プロセッサと RAM 間の通信に使用されます。
<b>バックアップ</b> — プログラムやデータファイルのコピー。安全対策として、コンピュータのハードディスクドライブは定期的にバックアップしてください。また、システム設定を変更する場合は、前もって重要な起動ファイルオペレーティングシステムからバックアップしておきます。
<b>バックアップバッテリー</b> — バックアップバッテリーは、コンピュータに電源が入っていないとき、メモリの特別なセクションに保存された日付、時刻、システム設定情報を保持します。
<b>パリティ</b> — データブロックに関連する冗長情報。
<b>ビーブコード</b> — システムのスピーカーから聞こえるビーブ音のパターンによる診断メッセージ。たとえば、1 回鳴った後にもう 1 回鳴ってから連続して 3 回鳴った場合、ビーブコードは 1-1-3 です。
<b>ピクセル</b> — ビデオ画面上の単一の点。画像は、ピクセルを縦横に配置することで作成されます。640 x 480 などのビデオ解像度は、横のピクセル数 x 縦のピクセル数の形で示したものです。
<b>ビット</b> — システムによって認識される情報の最小単位。
<b>ビデオアダプタ</b> — モニタと組み合わせることで、コンピュータにビデオ機能を提供する論理回路。ビデオアダプタは、システム基板に組み込まれている場合や拡張スロットに装着する拡張カードの場合があります。
<b>ビデオ解像度</b> — 800 x 600 などのビデオ解像度は、横のピクセル数 x 縦のピクセル数の形で示したものです。特定の解像度でプログラムの画面を表示するには、ディスプレイがその解像度をサポートしていて、適切なビデオドライバがインストールされていなければなりません。
<b>ビデオドライバ</b> — 選択された色数と希望の解像度を、グラフィックモードのアプリケーションプログラムやオペレーティングシステムの画面に表示するためのプログラム。取り付けたビデオアダプタに合わせて、対応するビデオドライバが必要になることもあります。
<b>ビデオメモリ</b> — ほとんどの VGA ビデオアダプタと SVGA ビデオアダプタには、システムの RAM とは別に、メモリチップが内蔵されています。プログラムが表示できる色数は、主として取り付けられたビデオメモリの容量によって決まります（他の要因としては、ビデオドライバとモニタの性能があります）。
<b>フォーマット</b> — ファイルを格納できるように、ハードドライブやディスクを設定すること。無条件でフォーマットを行うと、ディスクに格納された全データが消去されます。
<b>フラッシュメモリ</b> — コンピュータに取り付けられたまま、ディスク内のユーティリティを使用して再プログラミングできる EEPROM チップ。一般の EEPROM チップは、特別なプログラミング用の装置を使用しなければ書き換えはできません。
<b>ブレード</b> — プロセッサ、メモリ、ハードドライブを組み込んだモジュール。このモジュールは、電源装置とファンを搭載したシャーシに取り付けます。
<b>プロセッサ</b> — 演算機能と論理機能の解釈と実行を制御するコンピュータ内部の主要な演算チップ。通常、特定のプロセッサ用に書かれたソフトウェアを別のプロセッサ上で実行するには、ソフトウェアの改訂が必要です。「CPU」はプロセッサの同義語です。
<b>プロテクトモード</b> — コンピュータの動作モード。プロテクトモードでは、オペレーティングシステムを通じて次のことが実現されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>1 最大 4 GB のメモリアドレススペース（80286 プロセッサでは 16 MB まで）</li> <li>1 マルチタスク</li> <li>1 仮想メモリ（ハードドライブを使用して、アドレッシング可能なメモリを増加させる技法）</li> </ul>
32 ビットの Windows 2000 と UNIX オペレーティングシステムは、プロテクトモードで実行されます。MS-DOS はプロテクトモードでは実行できません。
<b>ヘッドレスシステム</b> — キーボード、マウス、モニタを接続しなくても機能するコンピュータまたはデバイス。通常、ヘッドレスシステムはインターネットブラウザを使用してネットワーク経由で管理します。
<b>ホストアダプタ</b> — コンピュータのバスと周辺装置用のコントローラとの間の通信を実現します（ハードドライブコントローラサブシステムには、集積ホストアダプタ回路が内蔵されています）。SCSI 拡張バスをシステムに追加するには、適切なホストアダプタの取り付けまたは接続が必要です。
<b>ミラーリング</b> — データ冗長性の一種。一組の複数の物理ドライブを使用してデータを格納し、さらに一組または複数組の追加のドライブに同じデータのコピーを格納します。ミラーリング機能はソフトウェアによって実現されます。「ガーディング」、「内蔵ミラーリング」、「RAID」、「ストライピング」も参照してください。
<b>メモリ</b> — 基本的なシステムデータを記憶するハードドライブ以外の装置。コンピュータには、複数の異なるタイプのメモリを搭載できます。たとえば、内蔵メモリ（ROM と RAM）、増設メモリモジュールなどです。
<b>メモリアドレス</b> — コンピュータの RAM 内部にある特定の位置。通常、メモリアドレスは 16 進数で表します。
<b>メモリモジュール</b> — システム基板に接続されている、DRAM チップを搭載した小型回路基板。
<b>ユーティリティ</b> — メモリ、ディスクドライブ、プリンタなどのシステム資源を管理するためのプログラム。
<b>読み取り専用ファイル</b> — 編集や削除が禁止されているファイルのことをいいます。
<b>ローカルバス</b> — ローカルバス拡張機能を持つコンピュータでは、特定の周辺デバイス（ビデオアダプタ回路など）を従来の拡張バスを使用する場合よりもかなり高速に動作するように設定できます。

「バス」も参照してください。

---




[メモ、注意および警告](#)

[メモ、注意および警告](#)

## Dell™ PowerEdge™ 850 システム ユーザーズガイド

---

### メモ、注意、警告

-  **メモ:** コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。
  -  **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。
  -  **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示します。
- 

### 用語集

略語の一覧が、「用語集」に収録されています。

---

**本書の内容は予告なく変更されることがあります。2005 年すべての著作権は Dell Inc. にあります。**

Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書で使用されている商標について: Dell, DELL のロゴ、PowerEdge および Dell OpenManage は Dell Inc. の商標です。Intel, Pentium および Celeron は Intel Corporation の登録商標です。Microsoft, Windows, および MS-DOS は Microsoft Corporation の登録商標です。Novell および NetWare は Novell, Inc. の登録商標です。Red Hat は Red Hat, Inc. の登録商標です。UNIX は The Open Group の登録商標です。

本書では、必要に応じて上記以外の商標や会社名が使用されている場合がありますが、これらの商標や会社名は、一切 Dell Inc. に所属するものではありません。

---

[メモ、注意および警告](#)